

子どもたちの健やかなる成長のために

BrainGym® Forum 2019

多領域に活用可能なブレインジムの未来

ブレインジムは、保健、福祉、産業など、様々な領域で活動する専門家と協働しやすく、
集団にも個にも応用可能なため、今後さらに多くの職種や業態での活用が期待されています。
年齢や性別に関係なく実践できるブレインジムの将来性について、
講演とポスター発表を通じて紹介します。



2019.6.16日

横浜情報文化センター 6F情文ホール / 7F大会議室
10:00~16:00 9:30 開場 / 12:00 ~13:30 休憩
【入場料】 5,000円

仁木啓介医師による特別講演 10:15~
「被災者と支援者へのこころの支援」

- 臨床研究 発達障害児に対するブレインジムの有効性の検証
- ポスター発表 療育の支援に活かすブレインジムエクササイズ
- 症例報告 医療・教育・福祉・スポーツ、各領域から

お問い合わせ、お申し込み方法、プログラムについては裏面をご覧ください。

【主催】一般財団法人 教育財団優愛 【協賛】有限会社Genius Love、Ensemble 【後援】日本EMDR学会、日本TFT協会、横浜YMCA、熊本YMCA

会場：横浜情報文化センター 6階 情文ホール / 7階 大会議室
〒231-0021 横浜市中区日本大通 11 番地



- みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口 徒歩0分
- JR「関内駅」南口 徒歩10分
- 横浜市営地下鉄「関内駅」1番出口 徒歩10分

6F 情文ホール

講演

9:30 開場 受付

10:00 開会 司会：上野昌枝（株式会社ティーズワーク）
挨拶：今道久恵

10:15 特別講演

精神科医 / ニキハーティーホスピタル理事長
仁木啓介氏

「被災者と支援者へのこころの支援」

近年、日本全土に大規模災害がみられている。関東、近畿、南海トラフなど大都市圏を襲う災害が危惧され、行政も対策を練っている。我々、こころの医療者として役割を果たすには、災害による心と身体の反応や対応法を熟知しておくこと、各専門機関との相互協力や連携を整えておく必要がある。演者は熊本地震で、被災者・支援者・支援者支援の役割を担った。今回、災害発生時に我々ができることを考察する。

◆プロフィール◆ 熊本大学医学部付属病院 神経精神科 / 国立熊本病院 神経精神科 / 熊本刑務所 医務課 精神科（法務技官）等を経てニキハーティーホスピタル理事長 / 日本 EMDR 学会 理事 他。PTSD 治療のエキスパートとして活躍中。



11:30 質疑応答

12:00 休憩

13:15 開場

13:30 講演

(財)教育財団優愛 理事長 (有)ジニアスラブ 代表取締役
今道久恵

「臨床研究より見えてきた子どもたちの困難さとブレインジムの役割」

発達障害児に対するブレインジムの有効性を検証する過程に於いて、見えづらいとされる感覚面の困難さが浮き彫りになった。加えて、身体特性を考慮した運動提案と心理教育を併用することで、不注意や衝動性のコントロールが可能になることが明らかとなった。心身に負担の少ない軽運動を用いた領域横断的な発達支援の必要性について紹介する。

◆プロフィール◆ 日本人第一期インストラクターとして国内外を問わず講演・ワークショップを展開。教育委員会やPTAからの講演依頼も多く、保護者から厚い信頼を寄せられている。精神科・小児科医師と協働し発達障害児への運動による支援を行っている。熊本震災支援や福祉施設でのボランティア活動へも積極的に参加している。平成 30 年 3 月、九州保健福祉大学にてブレインジムの基礎研究となる発達障害児に対する臨床研究を実施し、保健科学修士号を取得。



14:30 質疑応答

14:45~休憩 (15分)

15:00~16:00 ディスカッション

7F 大会議室 ポスター発表

発表者の在席時間：9:30~10:00 / 12:00 ~ 13:30 / 16:00 ~ 16:30

ブース
A

[A] 自閉症児に対するブレインジムの用いたアプローチ
[B] ダウン症児の運動特性の理解と支援

[A] 自閉症児に対するブレインジムの用いたアプローチ

3 歳男児に対するブレインジムの用いたコンサルテーションの事例報告を行う。自閉症の特性を理解しながらブレインジムの活用する支援のありかた、社会性と言語発達向上を目的とした運動の重要性を本人の変化と変容の様子を報告する。加えて、自閉症児に残存しやすい原始反射について、認知・情動の両側面から考察する。

[B] ダウン症児の運動特性の理解と支援

1 歳 8 カ月からブレインジムの始め現在 6 歳。初年は発達の基盤づくりを中心に運動提案を行い、2 年目は学習準備として、「書く」「見る」「聴く」能力を高めることを目的としたアプローチを実施する。身体の使い方や姿勢からアセスメントを行う独自の手法と、ダウン症児の特性を理解したうえで療育的介入と支援について紹介する。

竹村文 (アンサンブル主宰 / 教育学修士 / ブレインジムインストラクター)

◆プロフィール◆ コロンビア大学にて教育学修士を習得後、保育園や福祉施設に於いて発達障害児へ ABA や TEACCH などを用いた療育指導を行う。帰国後は、身体志向のアプローチと原始反射残存による支援に関心をもち、個別療育相談を行うアンサンブルを設立。豊富な臨床経験をもとに、子どもの社会性や学習の基盤を育むためには発達段階に合った運動が重要であることを伝えている。



ブース
B

ブレインジム流！新 1 年生の学習サポート

小学校に入学すると、学習が円滑に進むように児童には様々なスキルが求められる。書くことに抵抗する女児との関わりをもとに、学習準備に必要な「からだ・こころ」との関連に着目し、「書く」ことへの支援を報告する。

宇都宮千夏 (チヨダクリニック 臨床心理士 / 公認心理師 ブレインジムインストラクター)

◆プロフィール◆ 大学卒業後、精神科医療の現場に臨床心理士として勤務。現在は児童精神科・精神科で、発達相談（療育）や心理相談を担当している。今後は、ブレインジムやビルディング・ブロック・アクティビティのインストラクターとしての活動も展開予定。



ブース
C

不定愁訴から登校渋りが始まった娘と母へのブレインジムアプローチ

友人関係のつまづきから、頭痛や腹痛などの不定愁訴が出現。そのために登校が難しくなった中学 2 年生の娘と、必死に登校させようとする母へ身体からのアプローチを提案した。セッションを重ねるごとに心身ともに変化していく娘の姿を見て、母も自分の考え方を変えていく過程を紹介する。

新満奈緒子 (臨床心理士 / 公認心理師 / 産業カウンセラー / 保育士)

◆プロフィール◆ 帝京平成大学大学院を修了。現在は幼稚園・保育園での巡回相談、小児科や乳幼児健診において発達相談、児童精神科・精神科でカウンセリングなどに従事している 2 児の母。

ブース
D

Re connection ~自己・家族・そして社会へ~

児童期には目立たなかった協調運動の困難さや感覚過敏が思春期になり強く出現し、社会参加が困難になった成人女性に対する身体志向のアプローチを考察する。医療者からの紹介により教育的支援を開始し、2 年間で衝動性のコントロールや筋緊張の緩和が得られ、生きづらさの解消につながったケースを保護者の声とともに報告する。

今道久恵 (有限会社ジニアスラブ代表取締役 / 保健学修士 / 教員免許 / ブレインジムインストラクター)

7F 小会議室 物品販売と常設展示

販売時間：9:30~10:00 / 12:00 ~ 13:30 / 16:00 ~ 16:30

お申し込み方法 専用サイトまたはメールにてお申し込みください。

専用サイトからのお申し込み

<https://www.geniuslove-event.com/contact>

必要事項をご記入の上、お申し込みください。



メールでのお申し込み

info@geniuslove.jp

以下をご記入の上、送信してください。

① お名前 ② 連絡先 ③ 申込み人数



入場料(5,000 円)の事前振込にご協力をお願いします。三菱東京 UFJ 銀行 横浜駅前支店 普通預金 1304357 一般財団法人教育財団優愛

